【緑地を楽しむ本】

『 おべんともって 』

森山　京・文　　片山　健・絵

偕成社

くまの子が、山で仕事をしているお父さんにおべんとうをもっていきます。

とちゅう、ジュースを作るためにやまぶどうをつみにいく きつねの子、柿をもいでいるさるの子、あかとんぼのむれ、ドライフラワーを作るために花を摘むうさぎのおばあさん・・いろんな知り合いに出会います。 みんな秋ならではの実りを楽しんでいるようです。

シンプルにくまの子がお父さんのところまで歩いていくお話なのですが、秋の楽しさ・豊かな実りがぎゅっとつまっています。

むかーし、忘れ物を持ってきてもらったことや、逆に届けに行った時のことなども懐かしく思い出しました。

～緑地でも、あたたかい、落ち葉のふとんに寝っころがれるかな・・～

（遠藤）